

平成 26 年度 住吉高校第 2 回学校協議会次第
平成 26 年 10 月 10 日 (金) 18:00～19:30
大阪府立住吉高等学校 同窓会館

委員紹介

大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授	
放送大学客員教授	笠井 俊夫 様
大阪大学ナノサイエンスデザイン	
教育研究センター特任教授	奥山 雅則 様
前府議会議員 (住吉高校OB)	若林 勝雄 様
住吉高校後援会会長	川下 昭彦 様
住吉高校PTA会長	波々伯部 益尚様
(大阪市立阪南中学校 校長 柴田 俊次 様はご欠席)	

本校出席者 校長、教頭、事務長、岡本、山中、藤井、乾、久世、斎藤、木村、

本校より各種事業・取組の報告

校長より

生徒に訴えていきたいことは「競争」と「突破」である。クラブ活動においても、楽しむだけでなく、コンテストや発表会等に出て、学校の外に出ていくように奨励したい。

(1) 平成 26 年度進路状況について (乾進路指導部長より)

指定校推薦は 23 名、昨年は 30 名だったので、国公立大学へのシフトであることを期待する。センター試験は 195 人が出願で昨年より十数名増えている。5 教科型 (国公立) も増えているので、国公立希望者が増えたと分析している。

(2) 「骨太の英語力養成事業」における取組について (斎藤国際文化科長より)

外部より講師を招いて、夏期集中講座を行った。内容は科学に関するものでワークショップ等も行った (3 日間)。その後、TOEFL の特化したワークショップも行った (2 日間)。TOEIC、TOEFL の取り組みも継続深化している。

(3) 国際交流について (藤井指導教諭より)

受け入れ・海外研修についての報告。韓国からはセウォル号事故の影響で事業が今年度は取りやめとなっている。オーストラリア・アウトリーチ高校と姉妹校提携を行う。現在の留学受け入れは 5 名。海外研修は応募が多く、競争率が高く選考も厳しい状況となっている。

(4) SSH 事業について (岡本首席より)

生徒は積極的に取り組んでいる。研究成果の発表にも積極的に応募し、基本的に 2 年生全グループとなっている。今後の行事にも数多く取り組んでいる。

(5) ユネスコスクール活動について (山中首席より)

世界大会がまじか。大阪のネットワークから160名ほどの高校生が参加、岡山の高校生を含め500人ほどの高校生で運営。アジアフィールドスタディという海外研修を行う。2015年3月はカンボジアの予定。

(6) 生活指導について (教頭より)

従来の遅刻指導の効果が見られないので、10月より若干厳しい指導を行っていくことにした。
3月の学校協議会で総括を報告したい。

質疑応答

◎遅刻指導について

(委員)4回遅刻すると指導、とは甘いのではないか。4回は多いのではないか。遅刻するのは特定の生徒か。もっと遅刻指導を厳しく。他校の取り組みも参考にしてほしい。

(学校) 教育委員会では罰の指導は禁止している。

納得説得の指導。教員の意識も大切、ベル着の徹底が肝心であると思う。

朝の読書・小テストを行って効果の上がっている学校もあるが、住高での導入は今後の課題。

(委員)新しい指導が始まったということなので、3月の総括を楽しみにしている。

◎進路指導について

**(委員)現役で進学する傾向が高まっているという話を聞くが、浪人生は減っているのか？
指定校推薦の数はどうなっているか？**

(学校) 昨年の浪人は80人。今年は45人。現役でがんばった一方、浪人が減った。指定校推薦の募集は多いが希望者は多くない、ある大学は8名の募集に対して、1名が応募したのみ。

(委員)生徒は忙しいのか？

(学校) 行事が多く忙しいが、それが住吉高校の特色であり、教育委員会も期待している。特化と進学の両立は大変だが、10年度を見通せば生徒にとってプラスになっている。

次回開催について

平成27年3月10日(火)の予定